

福岡市臨海 3R ステーション ごみ減量活動の推進力はボランティア・スタッフ

NPO 法人エコネットふくおか

理事長 おおたに あゆみ 大谷 鮎子

臨海 3R ステーション全景

■ 転勤族が福岡に住みはじめて最初に驚くこと

福岡市では、ごみの分別は4分別収集です。「たった4分別で良いの？」と市外からの転入者は声を揃えて驚きます。「燃えるごみ」「燃えないごみ」「空きびん・ペットボトル」「粗大ごみ」の4分別収集ですが、実は集めたごみは処理施設（市内2カ所にある資源化センター・選別処理施設）でさらに9区分に分けられています。

驚かれることがもう一つあります。ごみの収集が夜間になされることで、単身赴任者や一人暮らしの生活者は、夜遅く帰宅してもごみが出せるので大いに助かっているとの声をききます。ただでさえ交通渋滞のひどい福岡都市圏内での昼間のごみ収集車の活動に比べ、夜間の移動はスムーズで効率的です。一方ではデメリットもあります。夜間収集はごみ収集に携わる人々への時間外労働割増賃金が発生し収集コストにかかってきます。さらに夜陰に乗じて悪質なごみ出しルールを守らない住民も出てきます。

■ エコネットふくおかを設立

福岡市はごみの分別をできるだけ簡単にして市民の負担を少なくする一方、市民の市民による市民のためのごみ減量推進活動を開始することにしました。中心になったのは臨海3Rステーション（リサイクル

プラザ）が立地する地域住民を含めた、熱い志をもつ市民ボランティア・スタッフたちでした。2001年に市とともにNPOエコネットふくおかを立ち上げて今年15周年を迎えました。これを機会に設立時の“熱い志=ビジョン、ミッション”を、あらためて市民や関係者に広く理解していただくために、定款の内容を分かりやすく一言で伝える「エコネットふくおか憲章」を作成して、憲章の実現に向かって精進して参ります。

■ 一步前をめざし、提案競技にチャレンジ

2014年、市より突然天から降ってきたような通知があり、その趣旨は、「ごみの減量推進活動」という目的に対して企画を提案し、その中から優れた提案者を選んで決定するという、提案競技への参加をうながすものでした。“自分が行きたくするような魅力的な臨海3Rステーション”づくりを合言葉に準備委員会を立ち上げ、①課題を解決するための取り組み ②強みをさらに強化させる取り組み ③エコネットふくおかの新しい試みの3点に集中して取り組みました。その結果、2016年春、提案競技で最優秀者として選ばれ、福岡市臨海3Rステーション（リサイクルプラザ）の運営の委託を受託したのがNPO法人 エコネットふくおかです。エコネットふくおかは、

「エコネットふくおか憲章」

- 1、私たちは、自分たちが住んでいる福岡の自然環境、都市環境を良好な状態で保全し、次世代に引き継いでいく責任と使命を自覚し、環境にやさしい循環型社会づくりをめざします。
- 2、私たちは、自らリデュース、リユース、リサイクルの3つのRを推進すると共に、3Rの輪を市民に広げていきます。その為に市民が学び合い、語り合い、考え、活動するための機会を作ります。
- 3、私たちは、一人ひとりが自発の意思と協働力をもって、創意工夫を重ね、目的の実現に向かって精進して参ります。



クリンバ
(マスコット
キャラクター)

福岡市の肝いりで設立され、当初は理事・監事に市の環境局から2名就任されていましたが、提案競技を前に両名とも退任され、現在は市からの理事・監事就任は0名です。完全に市役所から独立した市民の組織となりました。

■ 持続可能なエコ社会づくりのために

身の回りの物をいかにごみとして捨てないで、利活用する方法がないものか、エコネットふくおかの事務局員をはじめボランティア・スタッフが年中頭にあるのはこのテーマです。市政だよりや広報誌「エコライフ臨海」で広く市民に呼びかけて、再生のための各種講座を開催しています。内容は、おもちゃの病院・裂き織りコースター作り・ガウチョパンツ作り（簡単幅広パンツ）・ミニクッション作り・松ぼっくりでクリスマスツリー作り・傘の修理・木製のまな板削りなど毎月10件を超えます。

ごみの再生利活用の方法だけでなく、市民が不要になった暮らしの道具等を無料で受け入れ、同じフロアで必要な物を市民に無料で提供します。品物は、家具・

雑貨・衣類・図書等です。受入数は4月からの半年間で1カ月平均13,995点で同じく提供数は15,031点になります。

3Rの広報にも力をそそぎ、2階ギャラリーでは毎月、各種団体との連携による3R活動展示を開催中です。2016年4月から団体の活動を展示して下さったのは、「福岡友の会」「(一社)ふくおかFUN」「(公社)応用物理学会」「ウエットランドフォーラム」です。これまでも「ウォローズ福岡」「ぼあんの樹」「農でつながる教育ネットワーク」「(一財)日本熊森協会」等幅広い団体にご協力いただきました。

膨大な廃棄物の処理施設としての臨海工場に隣接した3Rステーションは、身近な暮らしの環境から地球環境問題まで幅広い視野で環境について考える環境学習の拠点施設として最適な場所です。エコネットふくおかは、持続可能なエコ社会づくりの一翼を今後も担っていく責務があり、地球上に住むすべての人に“ごみを作らない”“できたごみは繰り返し利用する”“できたごみを再活用する”3Rを訴えていきます。